

ガレキ・伐採木の管理状況(2016.1.31時点)

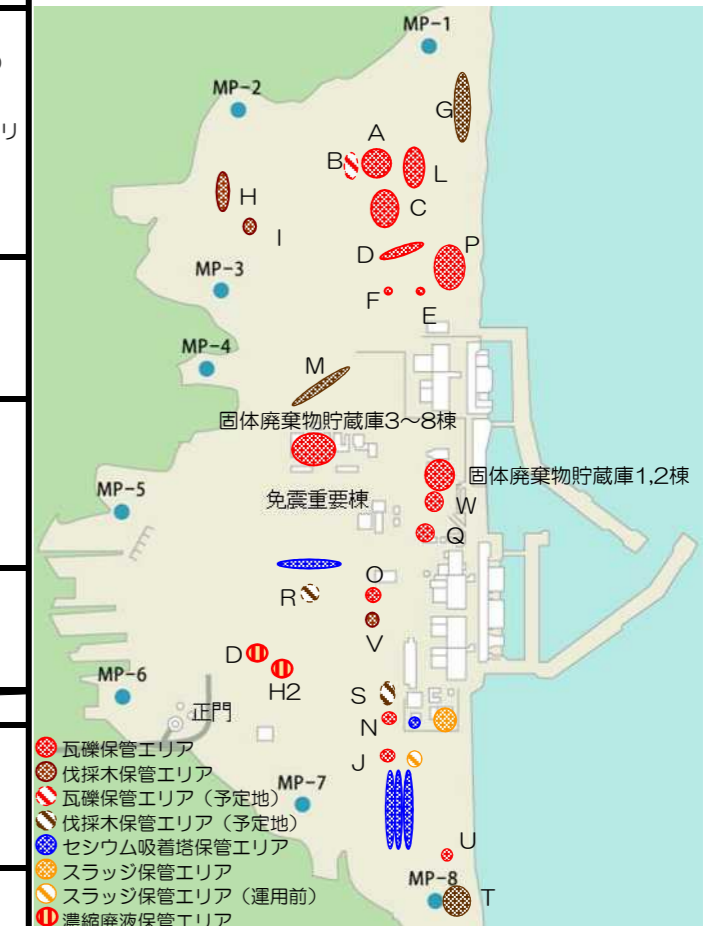
分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量※1	前回報告比 (2015.12.31)	変動※3 理由	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
ガレキ 屋外集積 (0.1mSv/h以下)	C	屋外集積	0.01未満	56,600 m ³	+1,700 m ³	①②③④⑤	89%	118100 / 177900 (66%)	<ul style="list-style-type: none"> 可燃物集積 エリアJはコンクリート・金属の一時保管から、可燃物(容器収納)の一時保管に運用変更。(2015年9月8日～) β汚染土 タンク漏えい等で発生した主にβ核種で汚染した土については、エリアNでの一時保管を開始。(2015年7月15日～) フランジタンク解体片 エリアPにて一時保管中。(2015年6月15日～) 2016年1月末時点で103基(コンテナ)保管。
	F	屋外集積	0.01	5,600 m ³	+600 m ³	④⑥⑦⑧	75%		
	J	屋外集積	0.02	3,200 m ³	+200 m ³	⑦⑧	68%		
	N	屋外集積	0.01	4,100 m ³	+300 m ³	②	41%		
	O	屋外集積	0.01	26,200 m ³	0 m ³	—	95%		
	P	屋外集積	0.01	21,700 m ³	-300 m ³	①②③⑦⑨	34%		
ガレキ シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600 m ³	0 m ³	—	88%	33200 / 57300 (58%)	<ul style="list-style-type: none"> エリアE エリアEの瓦礫類について、リスク低減の観点から容器収納へ移行中。 エリアP2 瓦礫類受入開始(2015年12月15日～)
	E	シート養生	0.04	7,100 m ³	-100 m ³	①⑤	45%		
	P	シート養生	0.02	2,500 m ³	+1,900 m ³	①⑦	28%		
	W	シート養生	0.02	21,000 m ³	0 m ³	—	72%		
ガレキ 覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100%	19900 / 27700 (72%)	<ul style="list-style-type: none"> 覆土式一時保管施設(第3槽) 瓦礫収納完了:2015年8月21日 仮覆土:2015年10月26日完了
	A	仮設保管設備	0.35	1,300 m ³	+200 m ³	⑩	18%		
	E	容器※4	0.02	300 m ³	微増	—	17%		
	F	容器	0.01	600 m ³	0 m ³	—	99%		
ガレキ 固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器※4	0.03	6,400 m ³	+200 m ³	⑩⑪	53%	6400 / 12000 (53%)	<ul style="list-style-type: none"> 主な瓦礫類は、3号機建屋で発生した高線量瓦礫類。 第9棟設置に伴う実施計画変更認可。(2015年7月17日)
	合計(ガレキ)				177,700 m ³	+4,800 m ³	—	65%	
伐採木 屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01未満	14,700 m ³	0 m ³	—	74%	67800 / 81500 (83%)	<ul style="list-style-type: none"> 工事により発生した幹・根を随時受入中。 エリアV移設後運用開始。(2015年10月23日～)
	I	屋外集積	0.01	10,500 m ³	0 m ³	—	100%		
	M	屋外集積	0.01未満	39,100 m ³	微減	—	87%		
	V	屋外集積	0.03	3,500 m ³	+1,100 m ³	①	58%		
	伐採木 一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	7,300 m ³	0 m ³	—		
T		伐採木一時保管槽	0.01	11,100 m ³	0 m ³	—	94%		
合計(伐採木)				86,200 m ³	+1,100 m ³	—	81%		

※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

※2 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。

※3 主な変動理由: ①フェーシング工事 ②タンク設置関連工事 ③陸側遮水壁設置工事 ④焼却対象物の集約作業 ⑤焼却対象物を一時保管エリアPへ移動 ⑥焼却対象物を一時保管エリアJへ移動
⑦焼却対象物の受入 ⑧仮設集積していた瓦礫類の受入 ⑨エリア整理 ⑩1～4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ⑪水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)の保管 等

※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。



水処理二次廃棄物の管理状況(2016.2.18時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2016.1.21)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	694 本	+4 本	3027 / 6067 (50%)	<ul style="list-style-type: none"> 吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) 第一施設にあったボックスカルバートを第三施設へ移設に伴い撤去(-60塔分) 使用前検査完了(2015年1月5日)に伴う保管容量増(+72塔分) 	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	154 本	+2 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,119 基			+29 基
			増設	808 基			+21 基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	73 本			+2 本
		多核種除去設備処理カラム	既設	9 塔			+2 塔
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		170 本	0 本				
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	<ul style="list-style-type: none"> 除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。 	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液		9,068 m ³	-112 m ³	9068 / 11100 (82%)	<ul style="list-style-type: none"> H2エリア(100m³×100基)からDエリア(1,000m³×10基)へ移送中。 タンクの変更に伴い、保管量が変化(-128m³分) タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) H2エリアタンクの供用廃止(2016年2月18日)。保管容量:20,000m³→11,100m³(保管容量20,000m³のうち、9,700m³分の撤去計画について認可済み。) 保管量に「タンク底部～水位計0%の水量(DS)」を含んでいない。(約100m³) 	

ガレキ・伐採木・水処理二次廃棄物・濃縮廃液の保管量推移

